



校長室だより

令和8年度

9月11日

NO. 18

自ら考え、輝ける秦梨っ子へ…。AIを力にできるように…。

「生成AIが答えを出すプロセスは人間とまったく異なるため、それにいくらか接しても、大局観や生きた知識、直感の習得にはつながらない」
『何回説明しても伝わらない』はなぜ起こるのか？
(日経BPO) 今井つみ著



主体的に学ぶ、各学年の授業風景の一コマ。コシアカツバメは雨の間に雨宿りで一休み。

飛来の少し遅いコシアカツバメが雨の間に縫って、夏を名残惜しむように校舎の間や運動場を飛び回ります。共に飛び立つ仲間たちと、自らの力で力強く楽しそうに羽ばたいています。

秦梨では二学期が始まりましたが、アメリカではいよいよ新学期が始まります。そんな中、ニューヨーク市の公立学校では、教育において八年生(中学二年程度)までAI利用を一年間停止するというニュースが流れました。「仲間と一緒に能力を伸ばし、教育者との関係を築き、難しい問題にも自分自身で向き合う」ことが目的だと言いつ、約六十万人の児童生徒に影響が及びます。けれどただ禁止するのではなく、一年かけて生成AIが子供たちの学習や生活に及ぼす影響について調査するそうです。スマホや生成AIを巡る問題が、全国、全世界で叫ばれる中、岡崎市においても、特別な事情がある場合を除き、原則、授業における生成AIの利用は禁止となっています。けれど、AIに関わる情報モラル教育は秦梨でも実施していきます。

子供が様々なことを学んでいく上で、当たり前ですが、まずは自分で考えたり試したりしなければなりません。成長の過程で、保護者に守られ何でもやってもらっていた幼児期より、自分で全てできるようになることは自立であり、思考においても、まず自分自身で考えることが自立と言えます。そしてAIがそれを阻害するのだと言われます。昨年度研究会を行った学校の校長先生は「まず自分で考えるようになった」と学習の成果を話されました。どの学年でも、答えが分からなくても自信がなくても、まず自分で向き合うことが大事になります。

日本でも「人間中心のAI社会原則」が策定されましたが、自ら考え、AIを活かして輝ける秦梨っ子の活躍を望みます。

- ・来週19日(土)は夏休み作品展、授業参観が行われます。2学期始めの学習の様子をご覧ください。あわせて奉仕活動を行います。日頃行えない清掃活動子供たちと行いますので、ご協力お願いいたします。ご協力いただける学区の方々にも感謝申し上げます。
- ・30日(水)には稲刈りが予定されています。保護者の方、学区の方も参加できますので、よろしければご参加いただければと思います。